

【ねがいましては】

平成11年10月25日

第119号

KYOWA SCHOOL

「尾関 宗園さんのこと」

先日、ふとTVに目をやると、京都が映りました。ある俳優さんが娘さんを連れての旅です。大覚寺、大仙院が映し出されました。ふと、お一人のご住職の方を思い出しました。尾関 宗園さんです。

私が中学3年、修学旅行で大仙院に行ったとき、宗園さんは私に、ドカンと心に言い知れぬものを残してくれました。当時の私は15歳、どう生きて行くべきなのか、どうあるべきなのか、思春期でもあった私にとって、宗園さんの言動は、目の前の壁が音を立てて壊れて行くほど衝撃的でした。

縁側に並べられようとしているその時、宗園さんは、「はい、女の子は前へ、ほらっ、男は後ろでいい！」……「なぜ、わたくしが女の子達に前へ来ていただいたかわかりましたか、わたしは男です、だから女が好きです。あたりまえのことをしています。」と、そこからドカンとやられました。なんて正直なんだろう。そして、宗園さんのお説教が始まりました。お説教といっても、しかられるわけではありません。「講話」とでも言ったほうがいいのでしょうか。

いきなり宗園さんは、自分の着衣を脱ぎ捨てると、それを遠くへ投げ捨てました。「さあ、あなたがた、あの着ていたものが川の中へ落ち、もしあなたのものであればどうしますか、さあ、どうしますか。」「考えてはいけません。今、今すぐ動かなかつたら、あの着衣は流されてしまうんですよ。今やらないでどうするんですか。今のあなたがたは、中学3年という一生の一こまを生きています、今やらねばならぬことを今やらずにいつやるんですか、考えているだけではだめなんです。動かなければ何も変わりません。」宗園さんは、急に厳しい顔をされたかと思うと、走って着衣を拾いに行かれ、そう語りました。一部確かでないところがあるとは思いますが、私は自分の心が大きく揺れ動くのを感じました。その後、「不動心」という本を出され、今でも教室にあります。それから、何か悩み事などあるときは、宗園さんならどうおっしゃるのだろうと、京都へ行きたいなど、ずいぶん思ったものです。あいかわらずのお元気なお姿に、よかったと、心おだやかになりました。そのときの宗園さんの語りには、「私は、あのような尊いご両親から命をいただいて生きていられる、生かされている、そのことを強く受け止めて、日々・・・」のようなことをおっしゃっていました。

今の私には、中学3年の時の感動がふたたび浮かび上がりました。ありがとうございます。

自身、極々小さな力だとは思いますが、「思いやること」「やさしさを身に付けること」を、どんなに強い風が吹こうとも、この小さな教室で、芽を育てて行こうと思います。

おかげさまで、今、わたくしの教室は、本当にまじめで、やさしい生徒さんたちに囲まれています。この子達の助けをいただいて生かされていることを、心から感謝しています。と同じに、お子さん達を、日々必死の思いで育てていらっしゃるご父母の方々に、心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。

そして、このような尊い気持ちを今私が感じられるのも、両親があつてこそです。

こつこつと歩かせていただきます。子供達に支えられながら。

11月の予定

10月後半、学習・全国統一模擬テスト（珠算科の方も、受験できます）

11日（木） 珠算・暗算検定試験申し込みしめきり

27日（土） 珠算・暗算検定試験・・・KYOWA SCHOOL

学習科、私の空いた時間帯はなるべく教室を開けますので、利用してください、（教室内に掲示）
中学科、11月後半から12月にかけては、定期テスト対策をいたします。より充実を図ります